

令和7年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ②防災に関する知識と防災を取り入れた暮らし方

- ◆ 今回の研修で防災についての基礎知識を被災地の写真や資料を見ながら知ることができ、またグループワークで情報を共有したことで今まで意識していなかった危険に気づけた。特に印象に残っているのは“オリジナルの防災”という言葉である。既存するマニュアルやアプリを参考にしながら、利用児童の特性や施設周辺の環境を考慮し改めて職員間で話し合いをしたいと思った。児童や職員の命を守れるような自分たちならではの対策をしたい。
- ◆ 防災の基礎知識と日常生活における基本的な取り組み、支援員としての心構えなどを学んだ。災害を特別なことではなく、日常の延長ととらえ、日々の暮らしと結びつけて準備しておくことが重要である。例えば、靴の置き方や物品の位置の点検、子どもの動きや習慣に応じた声かけである。ワークショップでのヒヤリハット事例も参考になった。普段の行動や環境を意識して見つけ直し、対応策を工夫して子どもの安全確保に努めていきたい。
- ◆ 防災は備えて終わりではなく、日々の意識と工夫が大切とのこと。大きな地震が40～50年周期で起こると言われ、秋田での地震発生のリスクが高まっている他、風水害、熊、広域火災等の話もあり、子どもを守る視点をもち、日頃から練習、声かけ、安心作りをすることが非常時の安全につながることを学んだ。想定は最悪を基準に考え、起きる前提でどう準備しておくかが重要とのこと。防災は“未来への想像力”の言葉が印象的だった。
- ◆ 災害はいつ起きるか分かりません。一昨年大雨による災害の時、道路が冠水したり避難指示が出たりした地域もあり、予想を超える事態になりました。こういった災害時にすぐ対応できるよう支援員間での役割を明確にし、施設内の点検や対策等を十分に行い、子どもたちと一緒に訓練へ参加するなど、いざというときに慌てず行動できるようにしていきたいと思います。後半のグループワークでは様々な防災に対してのアイデアや経験、対応策などを話し合い、意見交換ができてとても参考になりました。心理テストもおもしろかったです。今日学んだことを今後活かしていきたいと思います。
- ◆ 防災の基礎知識と防災を日常にする暮らし方や工夫について、自然災害は避けられないが日々の知識と意識があれば命は守ることができるとあらためて理解しました。災害を特別なものととらえず、日常の延長と考え、想定は最悪を基準にすることが大切だと強く実感しました。ワークショップでは各施設の防災についての具体的な場面に応じた対応策を話し合うことができ、支援員としての防災意識を再確認することができました。今後も学んだことを活かし、子どもたちが安心して過ごせるように努めます。